



倉敷市真備町の被害一北から南方向を見る
左上を斜めに流れるのが高梁川、右上の山すそが小田川

教会月報

あつた

金光教熱田教会

No.716 2018. 8

メール attakai@nifty.com

<http://attakai.life.coocan.jp/>

「JUNIOR?」思わなう
教会長

先月は記録的な豪雨による災害があり、また猛暑とか酷暑と言わずにいられない高温に日本中が攻め立てられ、八月もまだまだ暑さは続きそうです。集中豪雨では、西日本で二百人以上の方が亡くなられたり行方不明になったりしてしまいました。残念でなりません。

さて、このような大災害、大事件の後は、当然のようにその原因の究明が盛んに行われます。つまり「どうして?」ということですが、この「どうして?」ということを問題にすることはとても大切で、同じようなことが起きないようにするため、問題を整理して原因を究明し、次に備えるということではなくてはなりません。

しかし、この「どうして?」には、大切なことであるだけに辛い面が伴います。というのは、「どうして?」と問うことは、すなわち「何がいけないかったのか」ということになり、自ずと悪者探しへと展開していくからです。その悪者は、今回の災害で言えば、例えば山林の管理はどうだったかとか、気象情報は適切に把握されたかとか、情報は正確に流されたかとか、河川やダムとの管理がど

うだったかと問われ、その責任がどこにあるのかと追及されることとなります。そして悲しいことには、亡くなられた方がなぜ避難しなかったかなどというように、亡くなられた方の対処が問われることにさえなってしまうのです。亡くなつたうに自業自得のように言われては、御霊様が助かりません。

教祖様はこの点について実に明解です。すなわち、「これほど信心するのに、どうしてこういうことができるであろうかと思えば、信心はもうとまっておる。これはまた信心が足らぬのじやと思ひ、一心に信心してゆけば、そこからおかげが受けられる。」(教祖「理解4」) またその元となつた「理解」には、『またこういうことが起きた』というようなことが出てくるかも知れない。そのときこれはまだ私の信心が足りないのだと思ひ、これはどこまでも私の務めるべき役であると思つて信心していけば、そこからおかげが頂ける。」(「津治12」)と教えられています。

「どうして?」と問う作業は、放つておいてもいろいろな人がやってくれます。それはそれで聞き受けつつ、信心を頂く私たちとしては、「私の信心が足りないのだと思ひ」「私の務めるべき役」を果たしていくところに力を入れていくことが大切だと教祖様は教えてくださっているのです。

教祖様はどこまでも前向きですね。

